

藤川西部町内会
防災訓練は出会いの場！

『この町内に、住んでいてよかった』

地域・町内・隣近所の絆
～地域力・近所力で町内づくり～

取り組みへの思い

「安全で安心できる町内づくり」「わたしたちの町内は、わたしたちで守る」を実践し、万々に備えたい。

町内の概要

【世帯数】

町内会加入世帯：510世帯

町内会未加入：アパート43棟／ワンルーム365戸

【組・役員等】

23組（22世帯／組）、役員6名、評議員12名、民生委員2名、組内正副防災担当69名（各組3名／正：現組長・副：前組長・次期組長）、災害時要援護者27名

【福祉施設】

●知的障害者利用施設	藤花荘・第二藤花荘	（定員160名）
	愛知県藤川寮	（定員80名）
●認知症対応グループホーム	むらさき麦の郷	（定員18名）
●多機能型通所施設	サン・ワーク藤川	（定員30名）
●知的障害者グループホーム	藤川・第二藤川	（定員10名）

取り組みのポイント

災害時要援護者の安否確認、中学生の防災ボランティアとしての参加、町内福祉施設利用者の参加への呼びかけを目標にした。また、『強い絆』地域力・近所力を発揮しよう！を合言葉におき、「全世帯参加しましょう、子どもも参加しましょう、家族で参加しましょう」をキーワードに、訓練を実施した。

防災訓練までの活動メニュー

【平成19年度】

2月17日 平成19年度・第4回「組長会議」にて、各組の組長に、町内で独自に作成した該当組の「要援護者名簿」を渡し、「岡崎市災害時要援護者支援制度」について説明する

【平成20年度】

- 4月13日 平成20年度「第1回組長会議」
新組長に町内で独自に作成した該当組の「要援護者名簿」を渡し、岡崎市災害時要援護者支援制度について説明
- 6月2日 災害時要援護者地域支援モデル事業に西部町内会として応募
- 6月27日 平成20年度「第3回役員会、第1回防災会議」
今年度町内防災訓練に「災害時要援護者」の対応をテーマの一つとし、訓練に取り入れることを確認
- 7月13日 平成20年度「第4回役員会（評議員合同）、防災会議」
10月26日の町内防災訓練での「災害時要援護者」の対応について協議
- 7月23日 「東部地区防災防犯協会会議」（東部市民センターにて）
岡崎市災害時要援護者支援制度に伴う、新年度（6月1日現在）の登録リストを受取る
- 7月27日 総代・副総代・担当民生委員で、町内12組～23組の、「第1回目災害時要援護者宅訪問」を行う
- 7月29日 総代・副総代・担当民生委員で、町内1組～11組の「第1回目災害時要援護者宅訪」を行う
- 8月1日 災害時要援護者地域支援モデル事業
申込結果について通知がある
- 8月12日 「市政だより」を各組に配付の際、再度「岡崎市災害時要援護者支援制度」について、パンフレットを回覧
- 8月30日 町内「防災会議」
「平成20年8月末豪雨」のため、延期



地道な訪問活動を重ねる



何度か顔を合わせる度に要援護者や家族の表情がやわらぐ

8月31日 藤花荘グランドでの施設利用者の方々の避難誘導訓練を中心とした「学区防災訓練」は、毎年実施しているが、「平成20年8月末豪雨」のため中止

9月21日 延期した町内「第3回防災会議」開催

参加者：各組防災正・副担当（各組3名）、町内役員評議員、民生委員、学区各町防災防犯協会長、学区福祉委員会役員、消防団団長、副団長等、91名参加

会 場：荒古公民館

議 題：① 講話「災害時要援護者への支援について考える」

② 10月26日（日）西部町内会「防災訓練」について

演 題：『災害から一人ひとりの命や暮らしを守れる地域づくりのために、できることからやってみよう！』／NPO法人レスキューストックヤード 浦野愛氏

◆講演のポイント

- 事前の想定や、訓練・備えをすることで、不安や緊張感などが緩和され、早い対応が可能になる。キーワードは、『一人ひとりが災害に備え』『みんなで助け合う』『災害にも強い町づくり』
- その他については、27ページの「講演のポイント」参照

10月7日 総代・副総代・担当民生委員で、町内1組～11組の「第2回目災害時要援護者宅訪問」を行う。防災訓練に参加できるか、家族と面談し、意向を確認。また、町内防災訓練の概要、組内の防災正・副担当制度についても説明

10月9日 総代・副総代・担当民生委員で、町内12組～23組の「第2回目災害時要援護者宅訪問」を行う。防災訓練に参加できるか、家族と面談し、意向を確認。また、町内防災訓練の概要、組内の防災正・副担当制度についても説明。

同日、東海中学校へ出向き、校長・教頭と面談。10月26日実施の町内防災訓練計画を説明、中学生の防災ボランティア参加を依頼

10月13日 平成20年度「第3回・組長会議（評議員合同）」

災害時要援護者の方々の町内防災訓練の参加状況を説明。訓練当日の支援対応についても概要を説明。会議にはオブザーバーとして、町内民生委員2名、藤川消防団長・副団長が出席

10月20日 総代・副総代・担当民生委員で、町内1組～11組の「第3回目災害時要援護者宅訪問」を行う。再度家族と面談し、防災訓練参加の意向を確認

10月21日 総代・副総代・担当民生委員で、町内12組～23組の「第3回目災害時要援護者宅訪問」を行う。再度家族と面談し、防災訓練参加の意向を確認
(参加可11名、参加不可16名)



3回目の訪問活動で家族や要援護者の生活状況が充分把握できた

同日、東海中学校から町内中学生の防災ボランティア参加者名簿を受領。参加を希望した12名(男子10名・女子2名)の中学生を、5グループに分け、グループ毎にリーダーを1名選び、災害時要援護者(訓練に参加できなかった方)の安否確認のための訪問計画書を作成。また、留守の場合に投函する「訪問メッセージ」も用意

西部町内会だより

第130号 平成20年10月1日
西部町内会総代 藤川 忠 (46-3626)

— 地域の絆・町内の絆・隣近所の絆 —
～ 支え合う心・助け合う心・寄り合う心 ～

平成20年度
「西部防災会議」を開催。

去る、9月21日(日)粟吉公民館にて午後7時より、「西部防災会議」を開催しました。

議題は、次のとおりです。

(1) 10月26日(日)実施の「町内防災訓練」について。

(2) 講話
「災害時要援護者への支援について考える」
講師 NPO法人・レスキューストップキヤード
事務局長 高野 愛 氏

この会議には、西部町内会の組長さんを中心とした防災正副担当の方、学区他町の総代さん・福祉委員会役員の方・町内の民生委員・消防団長・副団長さんなどの10名の方々が参加しました。

10月26日(日)は、
町内防災訓練の日です。
— 会場：藤川小学校 —

— 20年度「町内防災訓練」テーマ —
「強い絆」
地域力・近所力を発揮しよう /

各組の組長さんを中心に、町内・組内・隣近所がお互いに、助け・支え・寄り合う「強い絆」をしっかりと、確認する訓練にしたいと思います。

大規模地震！ 東海地震・東南海地震・南海地震は、必ず起きます。明日起きるかも知れません。その時に備えた訓練です。

町内会投票1名以上、必ず参加しましょう。
子どもさんも参加しましょう。
家族で参加しましょう。

～ 大切な、大切な、家族の生命・財産を守るために ～

各組の組長さんを防災正担当に、昨年度の組長さん・本年度の組長さん、二人の方に、防災副担当として、夜組長さんを補佐する制度を今年度も取り入れることにしました。

町内・組内の「絆」を一層高めるため、正副3名で連携し、訓練参加の呼びかけ、訓練会場までの避難誘導、組内参加者の方々に訓練の苦労など、役員・評議員と一緒に、大規模地震に備え、実のある訓練にしたいと思います。

昨年度の組長さん・本年度の組長さん・防災副担当としての活動、よろしくお願ひします。

10月18日(月・祝)
第3回「組長会議」を開催します。

去る10月18日(月・祝)、粟吉公民館にて、今年度「第3回・組長会議」を開催し終了。

議題は、次のとおりです。

(1) 10月26日(日)実施の「町内防災訓練」について。

(2) その他

ご意見・ご要望をお聞かせ下さい。
上記会議に対する問合せは、総代まで。

～ 10月26日(日)は町内防災訓練の日です。～
家族みんなで、参加しましょう！

西部町内会だより：自治会活動を広報誌でこまめに発信することによって、取り組みの様子が住民全体に伝わって理解が深まり、協力者の増大にもつながった

防災訓練 当日

10月26日 (日) 7:20~12:30

- 平成20年度 町内防災訓練
- 参加者：709名（うち要援護者11名、福祉施設利用者57名）

藤川西部町内会
防災訓練は出会いの場！
『この町内に、住んでいてよかった』
地域・町内・隣近所の絆
～地域力・近所力で町内づくり～

訓練プログラム

- 7:20 地震発生！
訓練実施の電話連絡
- 8:00 第1次避難誘導訓練（各組「近隣待避場所」へ集合）。避難状況を組長が副担当の補佐のもと点呼（安否）確認。集合時間については、事前に組長が組の方の歩く早さを考慮。また、要援護者の方々に対する必要な支援などを組内で相談し、決定



まずは近隣待避場所へ避難



避難経路を確認しながら一時避難場所へ

- 8:10 第2次避難誘導訓練（町内の指定避難路を通り、一時避難場所へ集合）
先頭の組長が組旗を持ち、副担当2名が中央・最後尾に位置し、常に安全を確保する。災害時要援護者が参加する組では、防災副担当1名が付き添い、支援につとめる

8:50 一時避難場所「藤川小学校」に集合。

組長は一時避難場所に到着後、町防災本部に次のような報告を行った。

『〇〇組、避難者〇〇名、うち子ども〇〇人、避難完了しました。』

災害時要援護者避難については、家族と該当組の防災担当1名が必ず付き添い複数で対応



一時避難場所の藤川小学校グラウンドに到着



車椅子での避難誘導も順調

9:10 訓練開会式・総代あいさつ

9:30 訓練開始（防災体験コーナー、炊き出し準備、要援護者の避難誘導）

重症心身障がい者の親の聞き取りから

子どもをつれて初めて参加しました。いつもは「自分の子は無理」と最初からあきらめていましたが、今回は地域の方から声をかけて下さったので参加しようと思いました。訓練に参加して、日ごろ顔を少し知ってもらっているといいなあ、と思っていた人が声をかけてくれてうれしかったです。子どもに実際に接して触れてもらって、周囲の人に「こんな子どももいるんだ」ということを知ってもらういい機会だと思いました。避難所に「要援護者待避所」が設置されたことで、自分たちの居場所ができたようで、安心して会場にいられました。参加できて本当によかったです。



テントやパイプ椅子を置き、保健師を配置して「災害時要援護者の待機所」を設置



何かあった時にすぐに相談できる場所があり、皆さんも安心の表情

東海中学生による 防災ボランティア活動

東海中学校生徒の「防災ボランティア」が、要援護者と一緒にイベントをまわり、コミュニケーションをとった。



車椅子の介助も率先して行う

● 「防災ボランティア」としての自己紹介と、「災害時要援護者宅訪問記録票」の作成

訓練に参加できなかった災害時要援護者の自宅には、機動力のある自転車で出向き、炊き出し品を渡しながら、安否確認と情報把握を行った。

その際に、防災ボランティアとして「安否確認とお手伝いをしにきました」とお伝えし、自分が何を目的として訪れたかを言葉と文章によって自己紹介できるように工夫した。

戻ってきたボランティアには、「訪問記録票（23ページ参照）」を記入してもらった。



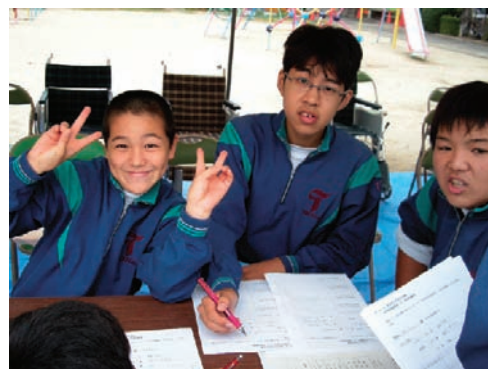
担当の要援護者の家の場所を確認中



いざ！出発



本部に戻り、状況報告



無事、任務完了！

防災体験コーナー

会場では、様々な体験コーナーを設けた。



①平成20年8月末豪雨での被害を教訓に土嚢作りに挑戦

②三角巾を使っての応急手当を学ぶ



③ダンボール・買い物袋・新聞紙で簡易トイレづくり。身近にあるものが役に立つ

④災害伝言ダイヤル「171」の使い方パネルで説明



⑤毛布・竹ざおで簡易担架づくり。運ばれ方にもコツがある

⑥地震の基礎知識や行政の無料耐震診断サービスについて説明



⑦普段は防災倉庫に備蓄している防災器具を展示

⑧災害時に知っておくと便利な知恵が満載の防災クイズコーナー



⑨消防署の指導でAEDの使い方を学ぶ。いざという時に使えるよう体で覚える

⑩ロープのほどけにくい結び方を伝授



10:40 団子汁の炊き出し

大がまで約700食の団子汁を作る。
みんなが食べやすい味付けや、
スムーズな配膳の方法を考える



11:10 はしご車の展示・消防署員による運転

11:25 放水訓練



はしご車の構造や伸びるはしごの
高さなどにみんなで感心



消防団・消防署員による放水訓練



水消火器で的を狙って発射！
消火器の使い方を体で覚える



中学生も大人も総出でバケツリレー。
「水をこぼさず迅速に」を心がける

11:30 閉会式・解散

12:30 会場後片付け

取り組みを終えて（住民アンケートより）

- 災害時要援護者については、町内で名簿を公開しないと意味がないと思うし、一日も早く助け合えるようにできたらと思います
- 私の身内にも高齢者が一人暮らしをしており、災害時要援護者支援制度は、たいへんすばらしいものだと思います
- 近所付き合いは大変重要であり、近所付き合いができていないと成り立たない制度なので、今後は近所付き合いをしていきたいと思いました
- 要援護者の介護体験や、車椅子の介助の仕方を体験できるとよかったのではないのでしょうか
- 我が家は災害時要援護者支援制度に登録しています。防災訓練をきっかけにして、身近な組内の方に我が子を知っていただく機会となればと思っていました。養護学校に通っているの、普段接点の少ない学区の子どもたちにも私たちの存在を知ってもらえるチャンスだと考えていました。雨が降る寒い中で食べたあつあつのだんご汁は、組・町内の方々と一緒に食べたことも加わり、身体も心も温くなりました
- 災害時、自分のことで精一杯で、支援できる自信はないのですが、支援できるよう心がけていきたいです（自分が要援護者の立場なら、支援してほしいと思いますから）
- 災害時要援護者制度について今回初めて知りました。もっと周知すると良いと思います。乳幼児を抱える家族も災害時には大変だと思うので、支援制度があると良いと思います
- 災害時要援護者支援制度を知ることができて良かったです
- 今回で2度目の参加でした。前は私一人、今回は障がい者の息子と二人の参加でした。はしご車に目を丸くして、この体験を目一杯楽しんでいる息子がいました

東海中学校生「防災ボランティア」の感想

なぜ訓練に参加しようと思いましたか？

- 小学生の頃から毎年参加している訓練だったので、当然今年も参加するつもりでした。「地震が起こっても家で一人でいて逃げられず、お手伝いが必要な人がいる」という話を聞き、かわいそうだと思う。役に立ちたいと考えて自分から参加を希望した。今日行った家は、本当に災害にあった時には気になって助けに行くと思う

訪問先でのご本人や家族の様子は？

- 自閉症の家族を訪問。家族から当事者について「人とのコミュニケーションが苦手、一人で動けるが集団の中で生活するのは難しい」という説明を受ける。実際に家での様子は、こちらから働きかけてもあまり動かないように感じた
- 高齢者世帯を訪問。食事は経管栄養のため、普通のご飯は食べられない。以前に足を骨折してから寝たきりになってしまった
- 一人暮らしの高齢者を訪問。家族はいるが、市外で暮らしているとのこと。実際に災害にあった時、家族がいないので大丈夫だろうか心配になった

東海中学校生「防災ボランティア」の感想

防災ボランティアをして、どんな事を感じましたか？

- やってよかったと思いました
- 家族と一緒に住んでいると、とても安心だとわかった
- 実際に災害が起こったときに、しっかりと声をかけて、しっかりとやれたらいいなあと思いました
- 実際に災害が起きたときに障がいのある方の家族が不在だったら困ると思った
- 周りの方々との交流が大切
- お年寄りのために、食料を届けるのを早くしないといけないと思った
- 今日は食欲がないので団子汁は入らないと言っていた。Yさんが松葉杖を使っているの
で、どうやって藤川小学校に行くのか疑問に思った
- 近所の人と話すのもいいと思いました。いろんな考えがあっていいなあと思いました
- 何を言えばいいのか、わからなかった
- 災害時に要援護者が不在の時は、臨機応変に対応することも大切だと思いました
- 本当に地震が起きたときに、僕らも役立てることが分かりました。すばやい処置が必要
だと感じました

今後に向けて

- 要援護者の方々と隣近所（地域）との日常的な接点をどうするか
- 要援護者支援制度を知らない方々に対する周知をどうするか
- 安全な避難誘導をどうするか
- 要援護者の方々に対する個別の支援プランをどうするか
- 要援護者宅の安全対策（家具の転倒防止、ガラスの飛散防止等）をどうするか
- 今回参加できなかった方々の訓練参加をどうするか
- 避難所の環境整備（トイレ等）をどうするか
- 万一の場合、要援護者の方々との連絡手段をどうするか

総代の言葉

今まで話したこともない人同士、ご近所同士が「防災訓練」という『場』をきっかけにして何かしらの会話を交わすようになる。それが結果的にコミュニケーションを深めるきっかけになっている。このような『場』を今後どれだけ提供していけるか。防災というテーマはこのようなコミュニケーションの『場』を生み出しやすいものの一つである。このような小さなきっかけ、出会いの場の積み重ねでしか、地域の中の助け合いの仕組みづくりは進めていけないのではないかと思う。